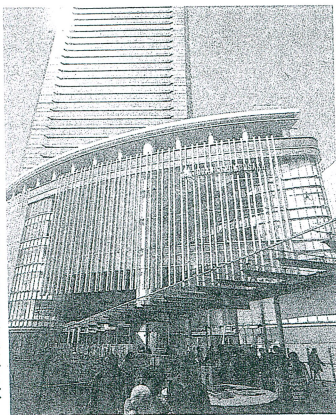


商業地 2年連続上昇

大阪圏の商業地のうち3年連続で最高価格地点となった「マンショント大阪南館」(大阪市北区)



公示地価

2府4県の商業地・住宅地の平均変動率

	商業地	住宅地
大阪	2.0(1.9)	Δ0.1(Δ0.2)
兵庫	Δ0.1(Δ0.4)	Δ0.3(Δ0.4)
京都	1.2(1.1)	Δ0.3(Δ0.6)
奈良	Δ0.3(Δ0.5)	Δ0.3(Δ0.5)
和歌山	Δ2.1(Δ3.0)	Δ2.6(Δ3.5)
滋賀	0.2(0.4)	Δ0.4(Δ0.3)

(注) %、カッコ内は2014年、Δはマイナス

大阪圏1.5%、観光けん引

住宅地、横ばいに回復

国土交通省が18日発表した2015年の公示地価(1月1日時点)は大阪圏(大阪府、京都府南部、兵庫県南部、奈良県の主な地域)の商業地が1.5%上がり、2年連続で上昇した。外国人観光客の増加により商業地での利用価値が押し上げられた。景気の回復基調や低金利による需要に支えられ、住宅地は6年連続の下落から横ばいに回復した。

光客の増加などにより商業地での利用価値が押し上げられた。景気の回復基調や低金利による需要に支えられ、住宅地は6年連続の下落から横ばいに回復した。

商業地

大阪圏の商業地は上昇地点の数が359と全体の57.3%となり、14年調査に比べて割合は7ポイント増えた。ただし変動率は13年の0.5%下落から14年は1.4%上昇に急回復したのに対し、15年は14年比0.1%の上昇率に回復した。大阪府の商業地の上昇率は2年連続だが、上昇率は14年の0.5%下落から15年は1.4%上昇に急回復したのに対し、15年は14年比0.1%の上昇率に回復した。

2府4県の商業地の最高価格地点

府県	地点	価格	上昇率
大阪	大阪市北区深大寺4丁目2番11号南館	10,100	10.4
兵庫	神戸市中央区三宮1丁目7番1号	3,100	3.3
京都	京都市下京区四ツ宮町東入1丁目51番1号	3,540	5.0
奈良	奈良市中筋町1丁目4番	560	2.2
和歌山	和歌山市友田町5丁目50番	438	0.0
滋賀	大津市梅林1丁目3番24号	316	3.3

(注) 価格は1平方メートル当たり、千円。上昇率は%、2014年比

大阪府の商業地の上昇率 上位5地点(いずれも大阪市)

順位	住居表示	価格	上昇率
1	中央区宗右衛門町7-2	7,010	11.3
2	同区心斎橋筋2-8-5	5,700	10.7
3	北区大深町4-20	10,100	10.4
4	中央区道頓堀1-6-10	2,020	9.8
5	北区大淀南1-10-9	635	9.1

(注) カッコ内は2014年の順位。価格は1平方メートル当たり、千円。上昇率は%、14年比

「ミナミ」上昇率30年ぶり首位

大阪府の商業地は、今年も「ミナミ」の古くからの繁華街が1、2、4位に入った。ミナミが1位になるのは1985年の道頓堀以来だ。1位は大阪市中央区石衛門町の戎橋北側のビルで、衣料品店のヘネス・アンド・マウリツ(H&M)が入居している。不動産鑑定士の松永明氏は「外国人観光客らでにぎわい、店舗の収入が増え、土地の収益性を高めた点が評価された」という。2位は同区心斎橋筋の薬師店、ヤマハミュージッククリエティング心斎橋店のある地点。3位には13年に開業した北区の大型複合施設、グランフロント大阪が入ったが、4位は中央区道頓堀のふくやまの繁華街だった。奈良県でも商業地は下落率が縮小。外国人観光客が多い寺社の集中する奈良市中心部の商店街で上昇が続いた。2年連続上昇の京都府では特に大型専門店など商業施設が集積する、京都市中心部の繁華街の上昇率が高かった。5年連続で下落率が縮小した兵庫県では繁華街の三宮や元町を抱える神戸市中央区のほか尼崎市や西宮市、伊丹市など広範囲で上昇率が拡大した。

住宅地

大阪圏の住宅地は上昇地点の数が14年の603から、15年は620にわずかながら増えた。しかし下落地点の数は839とまだ横ばいの地点の数とまだ横ばいの地点の数を上回っており、住宅地の地価は2府4県のいずれでも下落が続いている。大阪府の下落は7年連続だ。都心にある交通の利便性などの需要が堅調で、大阪府では北区や阿倍野区、京都市では上京区や下京区で上昇率が拡大した。京都市の好立地地域では、特にマンション用地的獲得競争が激しくなっている。京都府の住宅地は7年連続の下落だが、下落率は縮小した。5年連続で下落率が縮小した兵庫県では神戸市や芦屋市などで上昇が継続した。

注文スーツ販売 オンリーが強化 京都に最大店 紳士服製造販売のオンリーはオーグースーツの販売を強化する。京都市中心部の烏丸通に同社最大店舗を開業した。

人事

(地名は支店長) 千代文書 高木誠寿 高木誠寿 4月1日 富田林 藤田晃 大阪府警

新開空が発表訂正 新開空国際空港会社は18日、開空の国際線旅客数が過去最多だったのは2013年度ではなく、00年度だと訂正発表した。同社は17日、開空の国際線旅客数が14年4月～15年2月に1億2177万人となり、年度で最多だった13年度の1億2055万人を更新したと発表していた。実際には00年度の1億2897万人を超えておらず、2月時点で過去一番目の水準だった。

実態二部捜査4課長、葛城祐士 刑事部捜査官、西田昌司 薬物対策課長、永山隆 国際線旅客対策課長、宮田英夫 捜査共助課長、舟木善寛 研究課長、梶野弘弘 科学捜査研究所長、梶野弘弘 機動捜査隊長、中野弘司 刑務特別捜査隊長、大塚徳則 交通規制課長、小宮大輔 交通規制課長